

特集 糖尿病の神経学 revisited

企画 本誌編集委員会

特集の意図

糖尿病はいうまでもなく現代の common disease であり、神経内科医や精神科医にとっても、日常診療で頻繁に接するだけでなく、多彩な神経症状の背景となる重要な疾患である。糖尿病の神経学に関する最新の知識をお届けする。

特集の構成

1. 糖尿病患者の急性代謝失調への初期対応 (三宅康史) 糖尿病性昏睡を引き起こす急性代謝失調が、社会状況の変化を受けて急増している。この急性代謝失調の4つの病態、①糖尿病性ケトアシドーシス、②高浸透圧高血糖症候群、③乳酸アシドーシス、④低血糖について、その機序から診断、治療までを解説する。

2. 糖尿病と脳梗塞 (新堂晃大, 他) 糖尿病の血管合併症として、脳梗塞はメジャーな存在であるが、糖尿病は脳梗塞のリスク因子としてどのように考えられているのか、最新のデータをレビューする。さらに糖尿病が脳梗塞を引き起こす分子機構や、糖尿病患者における脳梗塞の治療で注意すべき点についても述べる。

3. 糖尿病性舞蹈病 (高松和弘) 糖尿病患者に突然発症する片側の舞蹈運動・バリエーションを糖尿病性舞蹈病と呼ぶ。本疾患について、その歴史から臨床像、病態生理、診断に重要となる画像所見に加え、鑑別診断、治療までを包括的に解説する。

4. 糖尿病と認知症 (羽生春夫) 糖尿病はアルツハイマー病や血管性認知症と密接な関係にあり、それら認知症の発症リスクを高めるといわれている。まず、糖尿病とアルツハイマー病との関わりについて自験成績を含めたレビューを行い、さらに著者らが近年提唱したアルツハイマー病病変や血管性病変よりも糖尿病の代謝障害に伴う神経障害に強い関連性を示す「糖尿病性認知症」についても解説する。

5. 糖尿病と自己免疫性ニューロパチー (出口尚寿, 他) 糖尿病では神経障害が高率に発症するが、その病態の多彩さから診断基準や、病型・病期分類はこれまで確立されていなかった。最近、提唱された新しい糖尿病性神経障害の病型分類をレビューするとともに、その分類を踏まえて自己免疫機序が想定される病型について自験例の検討も含め解説する。

6. 糖尿病と整形外科的神経疾患 (夏目唯弘, 他) 糖尿病患者の多くはしびれや運動障害を訴える。これらの大部分は糖尿病性多発神経障害とみなされるが、その中には多発神経障害をベースとした絞扼・圧迫性神経障害がかなりの数、潜んでいる。このような糖尿病患者にみられる整形外科的性格を持つ疾患として手根管症候群や肘部管症候群、足根管症候群などを中心に、疫学、診断、治療について解説する。